

中村学園大学  
栄養科学部 フード・マネジメント学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

## ■ 目 次 ■

---

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	3
①学生の確保の見通し	3
ア 定員充足の見込み	3
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	5
②学生確保に向けた具体的な取り組み状況	7
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	7
②社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠	8
<b>【添付資料】</b>	
資料①「栄養科学部栄養科学科の志願動向」	
資料②「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書 （高校生対象調査）」	
資料③「入試環境について」	
資料④「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書 （企業対象調査）」	
資料⑤「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査パンフレット」	

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ①学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

フード・マネジメント学科では、以下の通り定員を設定している。

入学定員	編入学定員	収容定員
100名	10名（3年次）	420名

当該、定員を充足する見込みとして、以下3点の理由を挙げることができる。

#### I) 既設学部学科における定員充足状況

フード・マネジメント学科を設置する栄養科学部においては、既存学科として栄養科学科（定員200名）が設置されている。

栄養科学部栄養科学科における平成23年から平成27年まで過去5年間の志願者数の推移をみると、志願者数は全入試方式合計で900名を超えており、10年間連続で4倍以上の倍率を確保している【資料①「**栄養科学部栄養科学科の志願動向の推移**」参照】。

以上の栄養科学部栄養科学科における志願倍率確保の状況から、同一学部を設置するフード・マネジメント学科においても定員を充足させる見込みがあると言える。

#### II) 受験対象者へのアンケート調査結果

フード・マネジメント学科を設置するにあたり、受験対象者へのアンケート調査を実施した【資料②「**フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(高校生対象調査)**」参照】。

当該調査は、フード・マネジメント学科が対象とする志願者層2,297名から回答を得たものであるが、そのうちフード・マネジメント学科への受験意欲として「受験したいと思う」と答えた人は13.6%（312人）であり、そのうち入学意欲を示したものは93.3%（291名）と、入学定員100名を2倍以上上回っていることから、十分な定員充足の見込みがあると言える。

#### III) 福岡県における18歳人口の動向及び競合校の状況

フード・マネジメント学科を設置するにあたり、本学及びフード・マネジメント学科を取り巻く環境分析を行った【資料③「**入試環境について**」参照】。

開設年度の2017年度と10年後の2027年度について18歳人口の減少指数（※2015年の18歳人口を100とした場合の指数推移）を比較すると、全国平均指数（90）に対し、九州エリアは（94）と18歳人口の減少率が小さい。全国的に減少が予想される18歳人口であるが、福岡県は九州エリア内で最も18歳人口の減少比率が小さく、比較的緩やかに減少

する傾向にある。また、福岡県の18歳人口の2017/2027年指数は(98)と、ほぼ変わらないことから安定的に志願者を獲得できる18歳人口の規模となっている。

また、似た学問系統を持つ福岡県の大学の定員充足状況として、公表されている福岡県内の大学における食物栄養学系学部等の定員充足状況を見たところ、平均定員充足率は2013年度106.7%、2014年度106.5%、2015年度105.1%と、3カ年とも105%を超えており、定員を大きく割り込んでいる大学は無いことから、定員の充足について懸念される点はないと言える。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### I) 既設学部学科における定員充足状況

フード・マネジメント学科を設置する栄養科学部においては、既存学科として栄養科学科(定員200名)が設置されている。

栄養科学部栄養科学科における平成23年から平成27年まで過去5年間の志願者数の推移をみると、志願者数は全入試方式合計で900名を超えており、10年間連続で4倍以上の倍率を確保している【資料①「栄養科学部栄養科学科の志願動向の推移」参照】。

また、受験者数および合格者数についても【資料①「栄養科学部栄養科学科の志願動向の推移」】の通りである。

最終的な入学者についても、過去5年間で定員を充足しており、また定員超過率も過度な超過の無いようにしており、今後も適正な定員充足率の確保に向けて努力する。

### II) 受験対象者へのアンケート調査結果

フード・マネジメント学科を設置するにあたり、受験対象者へのアンケート調査を実施したが、調査結果に客観性を担保すべく、下記の通り、回答者の属性を明らかにした第三者による調査を実施した。

		高校生対象調査
調査対象	高校2年生	
調査エリア	福岡県	
調査方法	高校留置き調査	
調査対象数	依頼数	2,880人(20校)
	回収数 (回収率)	2,297人(19校) (79.7%)
調査時期	2015年11月5日(木)～2015年12月9日(水)	
調査実施機関	株式会社 進研アド	

i) 回答者の属性について

本調査は、フード・マネジメント学科に対する需要を確認するための調査として実施したため、本学の主な学生募集エリアである福岡県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、2,297人から回答を得たものである。

具体的な属性は以下の通り【資料②「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(高校生対象調査)」3頁目参照】。

- ・回答者の性別は「男性」が48.4%、「女性」が51.2%である。
- ・回答者の在籍高校種別は「公立」が85.0%、「私立」が15.0%である。
- ・回答者の在籍高校所在地は中村学園大学の学生募集の中心である「福岡県」である。
- ・回答者の所属クラスは「理系クラス（理系コース）」が85.0%である。

回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」が70.4%、次に「私立大学に進学」が43.7%で高い。私立大学への進学志望者が多いことから、新学科がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。

また、回答者の興味のある学問系統は、「工学」が34.7%。次に「看護・保健学」が20.6%、「理学」が19.5%である。フード・マネジメント学科の学問内容と関連する「生活科学（食物・栄養学、被服学、児童学など含む）」は16.5%であった。

ii) 調査結果について【資料②「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(高校生対象調査)」4～6頁目参照】

本調査結果に基づけば、フード・マネジメント学科を「受験したいと思う」と答えた人は13.6%（312人）であった。

また、栄養科学部 フード・マネジメント学科を「受験したいと思う」と答えた312人のうち、栄養科学部 フード・マネジメント学科への入学意向を示した人は、93.3%（291人）であり、入学定員100名を2倍以上上回っている。以下は属性別の結果である。

#### ◇性別

「女性」の栄養科学部 フード・マネジメント学科への入学意向は95.3%（233人中、222人）と予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

#### ◇所属クラス別

「理系クラス（理系コース）」の栄養科学部 フード・マネジメント学科への入学意向は92.2%（219人中、202人）と予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

#### ◇高校卒業後の希望進路別

中村学園大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の栄養科学部 フード・マネジメント学科への入学意向は96.0%（199人中、191人）と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

#### ◇興味のある学問系統別

栄養科学部 フード・マネジメント学科と関連のある「生活科学」に興味がある回答者の入学意向は94.9%（198人中、188人）と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

#### ◇新学科の特色魅力度別

栄養科学部 フード・マネジメント学科の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、全ての特色で9割を超える。入学意向者数も270人を超えており、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

以上の事から、十分な定員充足の見込みがあると言える。

### Ⅲ)福岡県における18歳人口の動向及び競合校の状況

#### i) 18歳人口等福岡県のエリア環境について

福岡県の18歳人口の動向について全国動向と比較すると、文部科学省「学校基本調査(速報値)」によれば、2027年度における全国の18歳人口は2015年の18歳人口を100とした場合、90という指数を示すのに対し、九州エリアは92と、全国平均に比べ18歳人口の減少率が小さいことが伺える【資料③「入試環境について」3頁目参照】。

また、フード・マネジメント学科開設年度の2017年度と10年後の2027年度を比較すると、全国平均指数(90)に対し、九州エリアは(94)と18歳人口の減少率が小さい。全国的に減少が予想される18歳人口であるが、福岡県は九州エリア内で最も18歳人口の減少比率が小さく、比較的緩やかに減少する傾向にある。また、福岡県の18歳人口の2017/2027年指数は(98)と、ほぼ変わらないことから、福岡県は安定的に志願者を獲得できる18歳人口の規模となっている【資料③「入試環境について」4頁目参照】。

この18歳人口の中でも大学進学者数に限ってしてみると、福岡県の2015年度大学進学者数は1992年と比較し10%上昇し、進学率は20.5ptに増加している。福岡県は九州エリア内では大学進学率の伸びが沖縄県に次いで大きい県である【資料③「入試環境について」5頁目参照】。

以上の18歳人口の推移及び大学進学傾向を鑑みるに、2006年度と比較して18歳人口は5,411人減少(指数90)しているものの、大学進学率は5.2pt上昇しており、大学進学者数は2006年度とほぼ変わらない。大学進学率は近年伸びに落ち着きが見られるが、2027年

に向けて18歳人口はほぼ変わらないことを考えると、今後、大学進学者の大幅な減少を避けることは可能と思われる【資料③「入試環境について」6頁目参照】。

なお、九州各県における大学進学者の流出入の状況については、過去3カ年を見ると、福岡県は地元大学へ進学する割合が最も高く、64%前後となっており、隣県の佐賀県から福岡県への進学者も増加していることから、福岡県は安定的に志願者を獲得できる傾向にあるといえる【資料③「入試環境について」7～8頁目参照】。

#### ii) 似た学問系統を持つ他大学の志願状況について

フード・マネジメント学科と似た学問系統を持つ福岡県内にある私立大学の志願状況を見ると、過去3カ年の実質倍率は2013年度2.90倍、2014年度2.33倍、2015年度2.13倍と2.0倍以上を推移している。これに対して中村学園大学栄養科学部栄養科学科においては2013年度3.5倍、2014年度3.0倍、2015年度3.3倍と3.0倍以上を推移している【資料③「入試環境について」10頁目参照】。

また定員充足状況については、公表されている福岡県内の大学における食物栄養学系学部等の定員充足状況を見たところ、平均定員充足率は2013年度106.7%、2014年度106.5%、2015年度105.1%と、3カ年とも105%を超えており、定員を大きく割り込んでいる大学は無いことから、定員の充足について懸念される点はない【資料③「入試環境について」11頁目参照】。

## ②学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学における学生確保に向けた具体的な取り組み状況としては、以下3点を挙げるができる。

### ○オープンキャンパス

本学においては、年3回（8月に2回、3月に1回）ほどオープンキャンパスを開催しており、年間3,000名以上の高校生が参加をしているところである。

オープンキャンパスでは、本学の学びの中身について積極的に高校生へ伝える機会を設けており、学部学科の特徴やカリキュラムの詳細などについて、模擬授業の実施などを含めて学生確保に向けた取り組みを全学で実施している。

### ○高校訪問

本学においては、年間で延べ3,000校の高校を訪問し、主として進路指導担当教員との意見交換を実施している。この意見交換においては、本学の学部学科の特徴やカリキュラムの詳細などについて伝えており、進路指導担当教員が高校生の進路希望に沿う学部学科の紹介ができるよう学生確保に向けた取り組みを実施している。

## ○独自相談会

本学では、前述のオープンキャンパスの他に春（5月）と秋（9月）の年2回、独自相談会を開催して、高校生の学びに対する質問などといった進路の相談を受けている。ここでは高校生が学びたい内容や、将来の進路などを基に本学の学部学科のカリキュラム等について紹介をする機会を設けている。この独自相談会には毎年300名近い高校生が参加をしており、学生確保に向けた取り組みを全学で実施している。

## (2)人材需要の動向等社会の要請

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

フード・マネジメント学科では、上記の社会的背景をもとに、栄養科学の知識・技術・態度を基に、機能的食品や高齢食といった健康増進のための食品の研究・開発・製造のための知見に加えて、6次産業化や海外展開など食科学をビジネスへつなげる知見を併せ持つことで、高付加価値な食産業を創出できる人材を養成する。

とりわけ専門知識としては、ヒトの栄養に関する高度な栄養科学の知識・技術・態度の修得を基礎として、食品加工や食品機能といった食産業における新製品の企画・開発・製造のために必要な基礎的・専門的な教育を実施するとともに、食関係法規や食品表示、食品流通といった食ビジネスのために必要な基礎的・専門的な教育を実施することで、高付加価値な食産業の創出に寄与するための能力を修得させる。

具体的には、食の技術に係る知識として①人間の体・健康・味覚等の感覚に関する知識、②食品と栄養に関する化学的・微生物学的知識と技術、③食品に関する微生物学的知識と技術、④食品製造・加工・保存・包装・機能等に関する知識と技術、⑤食品の安全・安心に関する知識と技術を身につけるための教育を実施する。

また、食ビジネスに係る知識として①食品に関する法令やルール等社会システムに関する知識、②食品流通・食ビジネス・金融・経済に関する知識、③農水産業・食文化・調理に関する知識と技術、④情報処理・ITに関する知識と技術を身につけるための教育を実施する。

### ②社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

上記①で記載したフード・マネジメント学科における人材の養成に関する目的等が、当該養成しようとする人材に関する社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることについて客観的な根拠を得るべく、フード・マネジメント学科卒業生の就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象にアンケート調査を実施し、200企業から回答を得た【資料④「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(企業対象調査)」参照】。

調査結果に客観性を担保すべく、下記の通り、回答者の属性を明らかにした第三者による調査を実施した。



		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、福島県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、静岡県、長野県、岐阜県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、島根県、香川県、愛媛県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、大分県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	792 社
	回収数 (回収率)	200 社(25.2%)
調査時期		2015年10月30日(金)～2015年11月25日(水)
調査実施機関		株式会社 進研アド

i) 回答者の属性について

本調査は、フード・マネジメント学科卒業生の就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象にアンケート調査を実施したものであるが、回答者の属性は以下の通りである【資料④「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(企業対象調査)」3頁目参照】。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は38.5%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は51.5%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、中村学園大学の所在地である「福岡県」が46.5%と最も多い。次いで、「東京都」が19.5%である。
- 回答企業の業種としては、「食料品製造業」が30.5%と最も多く、次いで、「一般飲食店・フードサービス」が22.0%と、栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生の就職先として想定される業種の企業からの回答が多い。
- 回答企業の従業員数（正規社員）は、「100名～500名未満」が37.5%で最も多い。次いで、「50名未満」(24.0%)、「1,000名～5,000名未満」(13.0%)が多く、100名以上の比較的規模が大きい企業が半数以上を占める。

ii) 回答企業の採用状況について

回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が30.5%で最も多い。次いで、「5名～10名未満」「10名～20名未満」が15.5%。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。

回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が45.0%で最も多い。次いで「増やす」が40.5%で多く、昨年以上の採用が予定されている様子である。

回答企業の採用したい学問系統は、栄養科学部 フード・マネジメント学科の学問内容と関連する「生活科学系統（食物・栄養学、被服学、児童学など含む）」が56.0%であった【資料④「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(企業対象調査)」4頁目参照】。

iii) 栄養科学部 フード・マネジメント学科の社会的必要性について

栄養科学部 フード・マネジメント学科の社会的必要性についての評価は、98.0%（196企業）と、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学科であると答えており、全国的に社会的・地域的な人材需要の要請があると判断できる【資料④「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(企業対象調査)」5頁目参照】。

iv) 栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生に対する採用意向について

栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、90.5%（181企業）と、予定している入学定員100名を上回る採用意向がみられた【資料④「フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(企業対象調査)」5頁目参照】。

以下は属性別の結果である。

◇本社所在地別

中村学園大学の所在地が含まれる「九州・沖縄」エリアの企業の採用意向は、90.2%（123企業中、111企業）と、予定している入学定員数を上回っていた。

◇業種別

栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生の就職先として想定される業種（「食料品製造業」、「食料卸売業」、「飲食料品小売業」、「一般飲食店・フードサービス」）の企業の採用意向は、157企業中、144企業と、予定している入学定員数を上回っていた。

◇積極的に採用したい学問系統別

積極的に採用したい学問系統が「生活科学系統」の企業の採用意向は、92.9%（112企業中、104企業）と、予定している入学定員数を上回っていた。

◇新学科の特色魅力度別

栄養科学部 フード・マネジメント学科の各特色に魅力ありと回答した企業の採用意向は、全ての特色で9割を超えており、予定している入学定員数を上回っていた。

v) 栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生の毎年の採用想定人数について

栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた181企業へ、栄養科学部 フード・マネジメント学科卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は319名程度であった【資料④「**フード・マネジメント学科設置に関するニーズ調査結果報告書(企業対象調査)**」6頁目参照】。

以上のことから、フード・マネジメント学科における人材の養成に関する目的等は、当該養成しようとする人材に関する社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

以上